

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291000105		
法人名	株式会社 ケアサービス・まきの実		
事業所名	グループホーム 相浜ガーデン		
所在地	千葉県館山市相浜75-1		
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果市町村受理日	平成26年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成26年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生活リズムを尊重し、趣味、嗜好を重んじた関わりを図る事に努めている。</li> <li>・誰の、何の為、理由、根拠を追求し入居者様のより良い生活を支える事に努めている。</li> <li>・ご家族様との接点、コミュニケーションを重視し、情報交換、共有に努めている。</li> <li>・常に入居者様目線で職員都合にならぬ様に努めている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地元の名門赤門ヘルスケアグループの運営による5番目のグループホームで、設立1年半と真新しい。開設時からホーム長を中心にグループ内の精鋭中堅職員数名が核となり、新規採用職員とともに立ち上げたホームであり、職員の連携は良くモチベーションは高い。「ホスピタリティーある質の高い福祉・介護」を目指しており、設立間もないにも関わらず利用者に寄り添った支援はアンケートでも高い評価を得ている。iPadのモバイル機器を上手く活用して利用者の状況を分かり易く家族と共有し、新しいホームの壁面には写真類は貼らず、音にも配慮した共用空間はすっきりと落ち着いた雰囲気気で利用者に安らぎを与えている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示し、各自日々勤務開始前に黙読をする事を実践している。	「ホスピタリティーある質の高い福祉・介護を目指す」旨の法人の理念及び・信条(Credo)・目標に加えて、これを具現化する為にホームの25年度目標(気持ち良い挨拶・音に配慮したケア)を掲示し、職員間で毎朝確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	随時の行事では外出に出掛ける際に地元のお店を利用する事が多い。注文外の品を提供して下さる等運営に理解を示して頂いている。年2回の清掃活動にも参加し、地域住民とのコミュニケーションも図っている。	設立間もないが、地域との馴染みの関係作りに積極的に取り組んでおり、近くのお寺の住職の来訪を受けたり、お店や漁港とも良き交流が図れている。また、グループの保育園児を招いたり中学校とも連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成24年6月27日、民生委員・地域ボランティア共同研修会に参加し、「認知症の特徴と介護者の接し方」について講演させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元区長より防災上のアドバイス(地域特性を活かした)を頂戴した。参加家族より、入居家族の情報提供をより密にお願いしたいと申し出あり。以後フロア内に内容周知し全ご家族様を対象に皆が積極的に情報提供を行う事を周知する。	館山市高齢者福祉課、関係する二つの地域包括、区長、民生委員、家族代表等を招いて、本年度から2か月に1度開催している。家族代表はじめメンバーは交代で参加の方が多く、都度積極的に意見を頂き、広く理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場での情報共有、情報発信に留まっている現状である。様々な視点からアドバイスを頂けている。	館山市南部では初めてのグループホームであり市の関心も高い。立ち上げ時から設立や運営についてのアドバイスを頂き、運営推進会議にも毎回市の職員の参加を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は勿論、エレベーターの乗り入れについても制限していない(夜間帯については保安上の観点から施錠、エレベーターロック)。会議の場、日常の現場で自身に置き換えた観点から日々指導をしている。	信念が強く他者の言葉を聞き入れない方についても同行し納得いく対応を心掛けている。センサーやナースコール等も併用して拘束しないケアに努めている。県主催の基礎課程の研修に職員が参加し、ホームでの伝達研修も実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加を通じ自事業所へ内容周知をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通じ自事業所へ内容周知をする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には各所の説明を密に行い、常に先方の理解を確認しながら次項目に移っている。契約後に不明点があれば些細な事でも問い合わせ可能である事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場において常にご家族様からの意見を頂戴している。要望に関する意見があった際には他職員への周知、対応検討へと繋げている。	季刊で相浜ガーデン広報誌「しおかぜ」を発行し、分かり易くホームでの暮らしぶりを伝えている。また、家族来訪時にはIT機器を上手く活用して分かり易く話し合い、来訪の少ない家族にもメール、電話と家族にとって都合の良いツールで連携を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員満足度アンケートを本部で実施し集計したものを受けとる。アンケート結果から推察できる事項について抽出し業務改善に繋げている。	職員会議は毎月全体会議とユニットごとの会議を実施しており、毎回8割方と多くの職員が参加して活発な意見交換を行っている。毎年法人本部で実施する職員アンケートもフィードバックされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロアリーダー、サブリーダー、主任を配置し、業務姿勢から適切な役職、ポジションへの移行を実践する事を示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内でのスキルアップ研修が随時開催されている。参加を勧めるまでもなく各人積極的に参加の意思を表明する傾向にある。研修で得た事柄について実践出来ているか確認、評価が不十分な為今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の場でのグループワークが交流する機会となっているが頻度は多くない。会社が事業展開している中で他事業所との交流の場は委員会活動等で近年増加傾向である。他の良い所を模範とする取り組みに繋がる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の発言、行動、表情等の観察を徹底し記録入力、共有を徹底する。また、様々なアプローチをし良い結果でなかったとしても情報共有をしている。訴え、希望に対して極力実現出来る様尽力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り詳細な情報を得る様努力している。要望、希望については基本対応するための調整を実施している。初期に留まらず随時の情報発信、共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって最良な選択肢を探るよう努めている。 ※何を、どのように望んでいるかを聞き出す事		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の建物に入居者様が暮らしているのではなく、入居者様の家に職員がフォローに入っている認識である事を周知。当然キッチンで包丁を持って頂く、洗濯を始め床のモップ掛けを実践頂いている。共同生活介護を実践中。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全てを職員が担うのではなく、オムツ類の管理(発注→納品)や、本人の訴え内容如何では家族に協力要請をしている。家族にとって入居者様との接点が途切れない様支援を継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設利用前に通っていた美容店に通い続けている方あり。本人の希望で自宅に外出したり近所の方に会いに行っている。	利用者は地元の方が多く、行き付けの美容室や近所の方に会いに職員と一緒にいる。また、近所の方が入居者に会いに来たりと、入居前からの関係が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小テーブルを組み合わせ、相性、ADL等に配慮した配席となっている。また、随時職員が仲介し入居者様同士のコミュニケーションを推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去にあった事例より。サービス利用後在宅へ訪問し故人を偲ぶ話し合いを実践した。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が思う「どうあって欲しいか？」ではなく、本人が「どうしたいか？」の把握を随時行っている。実現が困難な場合については妥協案を立て本人が納得、安心する良案を探る。	手芸品を作ってみたいと要望があれば利用者と共に糸の購入から始め作品が完成するまで、利用者の意向に添えるよう支援に努めている。困難な場合は本人が納得する為の対応策をユニット会議等で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前情報に加え、生活歴を考慮した居室環境に近づけるよう努めている。照明、エアコン、ベッド以外は自身の馴染みのある物品を持ち込んで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰介護にならぬ様取り組んでいる。数歩、数メートルでも自身の力で移動出来る様取り組む。 記録入力システムで指示出し機能を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜話し合いを実践している。話し合いの結果を踏まえ介護計画に反映されている。	家族の意向は来訪時やメール・電話で把握し、利用者の希望等は各居室担当職員が中心となり情報収集している。その上でユニット会議等で話し合い、個々に合った介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月～6カ月毎、または身体状態に変化時に実施し、家族へは良く説明・話をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中で特記事項について明瞭に抽出される画面にて確認、共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市からの表彰の折には家族の了承、本人の理解と共に式典に出席した。酒、タバコについても本人の嗜好を理解し提供している。 ※火の元の管理は厳重管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	港が近い事から、捕れたての魚を入居者様と共に買い出しに行っている。海が近い事からサーファーが数多く立ち寄る立地である。散歩がてら積極的に挨拶をし交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、入居者様の希望でかかりつけ医を選定して頂いている。週2回の訪問診療、随時のネットワーク管理にて訪問投薬も迅速に対応している。	母体が医療法人にて、主治医の田中先生が月2回往診している。法人内情報ネットワークで常時、介護現場と主治医で本人の情報を共有できる仕組みを導入しており特筆に値する。耳鼻科や眼科等は家族の同行が基本であるが、連携を図り職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異変に気づき、観察するのは介護である。24時間看護師との連絡、確認が取れる体制が整備してある。必要時看護師からかかりつけ医への報告もされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関入院中においても、入居者様の状態把握に努めている。ADL、医療面等を随時把握しておくことでスムーズな受け入れ態勢が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができる十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師、かかりつけ医と情報共有し時期を見計らいムンテラを実施している。現時点で考えられるその後、対応について伝え家族から意思を伺っている。以後必要時家族のニーズを元に対応を再検討している。	当ホームで看取りを行うことを契約時に伝えている。重度化した場合は主治医から家族等へ治療方針などの説明をして頂いた上で、家族の意向等を聞き、方向性を見極めて対応している。開設2年目であるが看取りの経験は4件ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、身体観察の要点、初動対応の訓練等は適宜スタッフミーティングで実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の防災訓練、うち2回は消防支所を招き指導を仰いでいる。また、運営推進会議で地域からの協力体制をお願いしている。	避難訓練は夜間想定(職員各ホーム1人)で全利用者の誘導を実際に行い、避難方法を全職員が身につけている。ただ、2階からの退避に18分間かかっている。非常用発電機を設置すると共に、水・食品等1日分の備蓄品も確保している。	2階から外階段を使用しての退避については脱出シューターの平成26年度早期設置を予定しており、今後は安全・迅速に避難誘導が出来る事を願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	弊社経営理念に掲げているホスピタリティについて周知、指導をしている。	職員は「思いやり」「心からのおもてなし」の対応に心がけ、利用者へ添った言葉かけをしている。介護の際は一人ひとりを尊重し、気配りのある支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「起きましょう」では無く、「*時ですが起きますか？」等と職員が先導することの無い様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先に進めるのではなく、その時その時の優先順位を見計らい入居者様の”その時”を重視するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びは本人にて実施している。タンスから出すことは困難でも職員が取だし選択してもうら事は可能。その他整髪、髭剃りにしても極力自身にて実施頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を活かし出来る事は極力制限せず実施頂いている。包丁で切る、盛り付ける、皿を並べる、片付ける、洗う、拭く。半身麻痺の方にも出来る範囲で拭いて頂いている。	利用者の能力に応じて、馴染みのお店や漁港で食材購入しながらメニューを決めたり、またホームの菜園で採りたての野菜で料理や盛り付け等を職員と一緒にしている。食事は利用者と職員が同じ食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定実施し把握に努めている。毎食量、日々の水分量の把握をし、次の提供タイミングに活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態に合わせた口腔ケアを実施している。その他口腔内の乾燥が顕著な方には保湿剤を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	稀の失敗であったとしても、その原因を探っている。軽はずみに自立と逆行するような働きかけはしていない。	データ表で個々の排泄パターンを把握し、全職員で共有のもと、習慣を活かしてトイレでの排泄が出来るよう心がけている。失敗した時等は再度経過観察を行い、どこに問題があるか話し合い、無理のない排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールとして下剤を使用しているのは事実だが、その他、運動、食物繊維、ヨーグルト、プルーン等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時に入浴して頂く。それが夕食後であっても他の状況から可能と判断すれば実施している。強要する事はしていない。	日中はいつでも入浴ができ、一日2~4名ずつ支援している。浴室は2階が一般個浴、1階は手動式入浴リフトで職員1人で対応ができ利用者も安心・安全に入浴が楽しめる。入浴拒否の方は無理強いせず、日を置いて誘ったり、足浴・手浴等に代替するなど対応方法に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	万が一寝付けない時には、その理由を探る様努めている。空腹なのか、痛みなのか等。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の事をより知る取り組みの一環として。各居室担当者が服薬のセットを実施している。また、服薬の理解を深める勉強会を開催した経緯あり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、嗜好、生活歴を重んじ随所で入居者様に働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際には周囲の状況から判断し実現に向けて取り組んでいる。急遽外食、ドライブに出掛ける事もある。行事では内容によるがご家族様の参加を募る事もあり積極的に参加頂いている。	家族の要望により日常的な散歩をする方、回転ずしに行きたい方、海辺に行きたい方等、その時々職員と一緒に出かけ、個々の希望に添った外出支援に心がけている。外出を望まない方には、声かけをして何をしたいか窺い、柔軟な対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	完全に金銭管理が職員を行ってもらう訳ではない。ご家族様に紛失等の可能性を理解頂いた後、自己管理、自己清算をフォローしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各入居者様の意思、希望で外部と電話、手紙をやりとりを実施している。失語症の方には電話口で職員が仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所目標で掲げている“音への配慮”を日々実現できるよう努めている。職員が放つ音がいかに騒音、雑音であるかを指導している。また、フロア内には季節の花、装飾を配置し季節感を味わって頂いている。	リビングには写真などは掲示せず、すっきりした壁面には利用者作の元気な時の上品な水彩画の額等が掛けてある。ホームでの様子は主に年二回の家族会でプロジェクターを使用しスライドショーで投影するようにし、また職員が足音、ドアの開閉音、話し声等に配慮することにより、利用者はそれぞれにゆったりと過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人一人の状況を把握しより適切な居場所への誘導を行っている。入居者様同士の相性、個性に配慮し職員が見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴を考慮した居室環境に近づけるよう努めている。照明、エアコン、ベッド以外は自身の馴染みのある物品を持ち込んで頂いている。	ベッドを使用せずに和室の生活を寛いでいる方、読書家の方は本を沢山持ち込んだり、好きな造花を部屋一杯に飾っている方等、各居室担当職員と相談しながら、クローゼット内の整理整頓を含め、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の為のスペースでは無い事を再認識し、入居者様の為に何が必要かを常に情報共有している。		